

ウォッチガードと Halo、アラートから請求書発行までの MSP 自動化ソリューションの提供に向けた提携を発表

**ウォッチガードのセキュリティ運用機能が HaloPSA 内に組み込まれ、
MSP 向けのチケット発行、プロビジョニング、請求のワークフローを効率化**

2026 年 8 月 6 日（木） - 企業向け統合型サイバーセキュリティソリューション（ネットワークセキュリティ／アイデンティティセキュリティ／エンドポイントセキュリティ）のグローバルリーダーである WatchGuard (R) Technologies の日本法人、ウォッチガード・テクノロジー・ジャパン株式会社（本社：東京都港区、以下ウォッチガード）は、MSP がより少ない運用負担と迅速なレスポンスでセキュリティサービスを提供／管理できるよう支援するため、Halo との戦略的提携を発表しました。この提携の一環として、WatchGuard Cloud と HaloPSA が連携し、統合されたセキュリティ運用機能を Halo の製品に直接組み込まれることになります。

ウォッチガードは、HaloPSA とシームレスに連携することで、MSP 向けのセキュリティ態勢の監視と管理を簡素化し、レスポンスタイムを短縮するとともに、Halo のインターフェイスを通じてプロビジョニング、チケット発行、請求業務を効率化します。セキュリティイベントやライセンス情報を基にチケット発行ワークフローを自動化できるほか、検証済みの資産および利用権限データにより、契約内容の整合性と定期請求の精度が向上します。Service Desk Institute (SDI) によると、自動化によりチケット件数を平均 30%削減でき、IT サービスデスクの効率を向上させると同時に、運用コストを削減できると言われています。

ウォッチガードのプロダクト開発担当 VP である Ben Oster（ベン・オスター）は、次のように述べています。「MSP には、PSA 内で正確なコンテキスト情報を活用し、手作業を最小限に抑えつつ、自社の業務スタイルに合ったセキュリティ運用が求められています。Halo との提携により、MSP は業務を迅速に進め、お気に入りの PSA にウォッチガードを組み込むことで、より強固なセキュリティを提供できるようになります。」

ウォッチガードは、ネットワーク、アイデンティティ、エンドポイント、およびマネージド検知／レスポンス（MDR）機能を WatchGuard Cloud の下に統合することで、MSP 向けに統一されたセキュリティアプローチを提供しています。今回の HaloPSA との新たな連携を活用することで、MSP は PSA 内の単一のエージェントを通じてウォッチガードのセキュリティ運用を管理できます。これにより、技術者は作業が実行される現場で、適切なデバイス、ライセンス、およびイベントのコンテキストに基づいて対応できるようになり、ツールの乱立や運用上の摩擦を軽減すると同時に、顧客全体にわたるサービスの一貫性を向上させることができます。

HaloPSA のプロダクト責任者である Alex Golden（アレックス・ゴールデン）氏は、以下のようにコメントしています。「Halo の MSP パートナーは、ウォッチガードのフルスタックプラットフォームを利用できるようになったことで、サイバーセキュリティ分野におけるビジネスチャンスを捉えるためのより強力な手段を手に入れました。Halo とウォッチガードの連携により、MSP はセキュリティサービスの拡充や事業規模の拡大をより容易に行えるようになり、運用上の複雑さも軽減されます。」

また、Gardner Systems の CTO 兼 GigaOm のアナリスト、Paul Stringfellow（ポール・ストリングフェロー）氏は以下のコメントを残しています。「MSP は、運用の複雑さを管理しつつ、効率的にセキュリティを提供するというプレッシャーにますます直面しています。HaloPSA のような PSA プラットフォームとの連携は、現代の MSP が手作業の負担を軽減し、レスポンスタイムを短縮し、より効果的に事業を拡大するために不可欠です。MSP としてベンダーを評価する際、PSA 連携機能は主要な検討事項となります。」

ウォッチガードと Halo が MSP のセキュリティ管理をいかにシンプル化しているかについて、詳しくはウォッチガードの Web サイトをご覧ください。

*本資料は、本社が発表したプレスリリースの翻訳版です。

【WatchGuard Technologies について】

ウォッチガードは、マネージドサービスプロバイダー（MSP）向けに設計された統合型サイバーセキュリティ分野におけるグローバルリーダーです。30 年以上にわたり、MSP が大規模なセキュリティ対策を提供する方法を確立し、脅威情勢のあらゆる大きな変化に先んじるべく、絶えず革新を続けてきました。AI を活用した「Unified Security Platform（R）」により、ゼロトラストに対応したネットワーク、エンドポイント、アイデンティティ保護機能を単一の統合プラットフォームで提供し、複雑な運用の軽減、対策成果の向上、ビジネスの効率的な成長を可能にします。世界中で 150 万社以上の顧客を保護する 25,000 社以上の MSP に利用されており、パートナーが世界中の顧客に対して、強力かつ測定可能なセキュリティの成果を提供できるよう支援しています。

さらなる詳細情報、プロモーション活動、最新動向は X（@WatchGuardJapan）、Facebook（@WatchGuard.jp）、をフォローして下さい。

X：<https://twitter.com/WatchGuardJapan>

Facebook：<https://www.facebook.com/watchguard.jp>

また、最新の脅威に関するリアルタイム情報やその対策法は SecplicityJP までアクセスして下さい。

SecplicityJP：<https://www.watchguard.co.jp/security-news>

WatchGuard は、WatchGuard Technologies, Inc. の登録商標です。その他の商標は各社に帰属します。

【本プレスリリースに関するお問合せ】

ウォッチガード・テクノロジー・ジャパン株式会社

〒106-0041

東京都港区麻布台 1-11-9 BPR プレイス神谷町 5 階

マーケティング担当

Tel：03-5797-7205 Fax：03-5797-7207

Email：jpnsales@watchguard.com

URL：<https://www.watchguard.co.jp>